

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600487		
法人名	有限会社光洋エステート		
事業所名	グループホーム日吉		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1番9号 (電話) 0144-72-6000		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年7月3日(火)	評価確定日	平成19年7月27日

【情報提供票より】 ( 19年6月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数	18 人
職員数	15 人	常勤	14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 1.3

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1 階建ての 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有 ( 円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	600 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 1,300 円		

### (4) 利用者の概要 ( 6月28日 現在 )

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.3 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	柴田循環器クリニック とまこまい脳神経外科病院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム日吉は、平成13年5月の開設後、平成18年10月の法人代表者の交代に伴い、運営体制が大幅に変更になった。職員の交代など一時は混乱もあったが、熱心な管理者の就任もあり、先月末から体制が整いつつある。建物内は、広々とした余裕のある造りで、全ての居室に洗面台が備え付けられており、浴室の洗い場や台所もゆったりして使いやすい。ホームに来て日の浅い職員も多いが、ケアサービスの向上に非常に熱心で、利用者と同じ目線での会話を心掛け、人生の大先輩として敬っている。また、利用者のペースを尊重し、個人の希望に沿うように支援している。利用者も職員を信頼し、伸び伸びと生活しており、ともに過ごし、支えあう関係を築いている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム理念の見やすい場所への掲示、家庭的な共用空間作り、居間の椅子の配置も含めた過ごしやすさの工夫など管理者と職員全員の協力のもとに、多くが改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今年度に関しては、運営体制の大幅な変更もあり、管理者が中心となって自己評価の実施に取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、今年度開催する予定であり、今回のサービス評価の結果を運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、参加者からの意見を聞き、話し合いを行なっていく。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には話し合いの時間を設けて利用者の状況について話をし、家族に対しては気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めている。今後は、家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会作りのために、アンケートの実施なども検討していく。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	今年度、町内会に入会し、地域の行事にも参加している。最近、絵手紙の講習に職員と一緒に利用者も多数参加した。今後は、町内会と今年度実施予定の運営推進会議を通して、地元の人々とさらに交流を深めていく。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全体で実践していくためには、従来の理念に、果たすべき役割を反映したフロー理念を補足追加したいと考えている。	○	地域密着型サービスとしては、何が大切かを再度全職員で確認し、現状にあったフロー理念を作りあげ、実践していくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念の意義を理解し、日々のカンファレンスで確認し、実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度、町内会に入会し、地域の行事に積極的に参加している。先日も町内会主催の絵手紙講習に職員と一緒に利用者も多数参加した。	○	今後は、町内会や、今年度実施予定の運営推進会議を通して、ホームに設置してある救命器機（AED）を地域の方にお知らせし、活用して頂くことなど、身近なことを情報発信し、地元の人々と交流していくことを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年度は、管理者が中心となって自己評価の実施に取り組んだ。前回の外部評価の結果に関しては、改善が進んでいる。	○	今後は、管理者だけではなく、全職員が自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組めるよう、ホーム内の会議や勉強会を行なっていくことを期待したい。

苫小牧市 グループホーム 日吉

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ行なわれていない。今年度開催する予定である。	○	今回のサービス評価の結果を運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、参加者からの意見・要望を受け、双方向的な話し合いを行なっていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者を月1、2回は訪問し、ホームに関して相談をしたり、情報発信するなど、市と協力してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には話し合いの時間を設けて利用者の状況について話し、緊急時には電話で連絡している。毎月、金銭出納の明細と次月の行事案内を、隔月で「ホーム便り」に簡単な手紙を添えて郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対しては気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めている。「ご意見箱」を設置しているが、特に意見が入ったことはない。	○	家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会作りのために、無記名でのアンケートの実施などを検討していくことを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前年度に職員の離職や異動があったが、異動は必要最少限度に抑え、新職員の紹介、職員間の引継ぎに関しては、利用者の特性に配慮した説明を行なうなど細心の注意を払った。家族に対しては、面談の際や手紙で理解を求め、利用者に対してのフォローへの協力もお願いした。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成のために、外部研修を職員が受講できるように日程の調整を図り、全員が受講できるように取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の管理者会議では、職員の交流会が企画されているが、職員の入れ替わりもあり、現状では、全職員が地域の同業者と交流を深めるまでには至っていない。現在、有志で相談して、互いのグループホーム見学会の企画が進められている。	○	市内の当ホームと関連ある複数のグループホームと共同で事例発表や外部講師を招いての研修会を企画中とのことなので、その実施と成果を期待したい。
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、本人と家族にホームを見学してもらい、本人のホーム見学が困難な場合は、管理者が本人に会いにいっている。利用開始後には、利用者と職員がゆっくり話をして馴染みの関係をつくっており、雰囲気になじまない利用者には家族の協力を得て、数日間、家族に泊まってもらったりしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と同じ目線での会話を心掛け、人生の大先輩として敬っている。利用者には、調理では、料理の味見、お米研ぎ、包丁研ぎなどを、家庭菜園では、野菜の育て方、道具選びなど、広範囲に渡って協力をお願いしている。職員が慰められることも多く、ともに過ごし支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行事や誕生会での献立、おやつなどは希望を聞いて用意している。誕生会には利用者の希望で寿司の出前を取ったりしている。買物に行ったときも欲しいものは自分で選んでもらう。利用者と日常での約束ごとは必ず守るなどを徹底している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、家族や関係者の気づきや意見を反映した介護計画を、職員全員で話し合いながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居直後は1ヶ月ごとに作成し、短期目標が3ヶ月、長期目標を6ヶ月として介護計画を見直している。状況に応じて随時見直しを行わない、現状に即した支援を行なう体制を整えている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院時には、基本的に家族送迎であるが、診察に参考になる事項のメモを渡している。家族の都合がつかないときは職員が同行している。美容院や図書館、仏花等の買物など行きたい場所への必要な支援には臨機応変に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は協力医療機関以外に、掛りつけ医の受診を受けることができる。掛りつけ医に往診してもらうこともある。協力歯科医院の歯科医師が毎週往診しており、希望者は受診できる。皮膚科の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は終末期における医療機関による体制がまだ整っていないので、特に高齢の方が入居した場合にのみ、契約時に重度化した場合と終末期のあり方について本人と家族に話し、相談している。	○	今後は、医療機関と提携し、重度化や終末期よる体制を整備していくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉遣いは丁寧であり、個別的にきちんと対応している。記録物の保管場所を定め管理している。日頃から職員には個人情報に関しての話をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事の時間、夜のテレビ鑑賞など利用者1人ひとりのペースを尊重している。夜中に起こして欲しいという利用者もいるが、体調や状況に気を配りながら、できるだけ個人の希望に沿うように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は調理、配膳、盛り付けや後片付けなどの役割を行なっている。職員は利用者と一緒に、同じ食事を食べている。洋風より和風、お袋の味など高齢者の好みそうな味付けを工夫し、ごはんのお代わりは自由で、自分でよそって食べる利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週2～3回、時間は午後としているが、希望者はそれ以上入浴できる。入浴を拒否する利用者には声掛けのタイミングを工夫したり、午前浴にしたり、柔軟に対応している。	○	今後は、夜間浴の検討も期待したい。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の家事や、菜園の手入れ、鉢植えの世話、刺繍や塗り絵など趣味の活動など利用者は、一人ひとりが役割や楽しみを持っている。最近は絵手紙の講習会にも参加するなど楽しみが広がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やイチゴ狩りなど、季節の行事や、日常の散歩、買物など利用者が外出できるように支援している。外出の機会の少なくなる冬季は、イルミネーションの見物を企画している。利用者の散歩の希望には可能な限り対応している。	○	今後は、外出の希望を伝えない利用者に対しても、遠慮していないかどうかを汲みとったり、工夫して散歩に誘ったりする試みを期待したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、玄関ドアの設備上、外からは自由に入ることができるが、ホーム内からは、ボタン操作をしなければドアは開かない。利用者は、自分でボタン操作して外に出ている。	○	玄関ドアの開閉がボタンなしでもできるように検討することを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、職員の指導も含め、防災訓練を実施しているが、夜間も含め、災害時に対応する緊急マニュアルの整備は整っていない。	○	緊急マニュアルの整備と、運営推進会議などを通じて、避難回路や場所も含め、地域との協力体制を具体的に検討することを期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事に関しては、外部業者に委託している。外部業者との月1度のミーティング等を通じ、利用者の栄養状態や食事量を確認している。現在、水分摂取量の少ない利用者があり、職員が工夫して対応に当たっている。	○	水分摂取量の少ない利用者に水分を取ってもらうように、今後も職員間での話し合いや研究を重ねて対応していくことを期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の3つのソファには、利用者がそれぞれお気に入りの場所があり、みんなで思い思いにくつろいでいる。ホーム全体は明るく、廊下の要所にも明るい色のソファが用意され、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた家具や馴染みの物が用意され、安全で安心な生活の場となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。